

インパルス Impuls の訳注の、「活動電位」について疑問をもたれた方へ

エミール・デュ・ボア・レイモンの後を継いだ、ユリウス・ベルンシュタイン Julius Bernstein(1839-1917)は、1868年独自に工夫して作った差動型(微分型)電流断続器を用いて、神経における活動電位の検出に成功しています。検出しただけでなく、活動電位の電位変動を曲線グラフの形で正確に記録しています。

それから40年近くも経った1907年、プフングストがImpulsと書く時、彼の意識には当然、「活動電位」の概念はあったと思います。

私訳第4章115ページの原注に出てくる「ベルンシュタイン式音叉型電流断続器 der akustische Stromunterbrecher von Bernstein」も、その思いを益々強くします。というのは、その断続器は多分、1868年の電流断続器が扱いやすく改良され、種類も用途に応じて幾つか作られた、その1つだと考えられるからです。となると、プフングストはベルンシュタインの業績についてかなり詳しく知っていた、と推測されるのです。

つまり、もし、これがヘルマン・ヘルムホルツの「インパルスの伝導速度の測定」(1850)に関する書籍であったなら、同じインパルスという語であっても訳注に「活動電位」という語を用いることは許されませんが、本書の訳注では少し強調するくらいに書いておいた方がよいということです。

もちろん、1907年当時はまだ、活動電位について、(ベルンシュタインが膜説を唱え始め仮説を打ち立てたとはいえ)今日のような複雑な詳細は闇の中でしたし、神経の構造や伝導の仕方についての知識も未熟なものでありました。

オルロフ・トロッターとオルロフ・ロストプチンを、同品種と考える方へ

オルロフ・トロッターもオルロフ・ロストプチンも、同じロシアの名門貴族オルロフ家によって品種改良されたウマです。が、前者は軽輓馬用に品種改良されたウマであり、後者は乗馬用に品種改良されたウマ、すなわち別品種です。

第3刷で訳注を数カ所増やしましたが、ページ数を変えることに抵抗があったものから、許されるスペースが非常に狭く、説明が不十分な箇所ができてしまいました。この場を借りてお詫び致します。

2021年10月25日

柚木治代